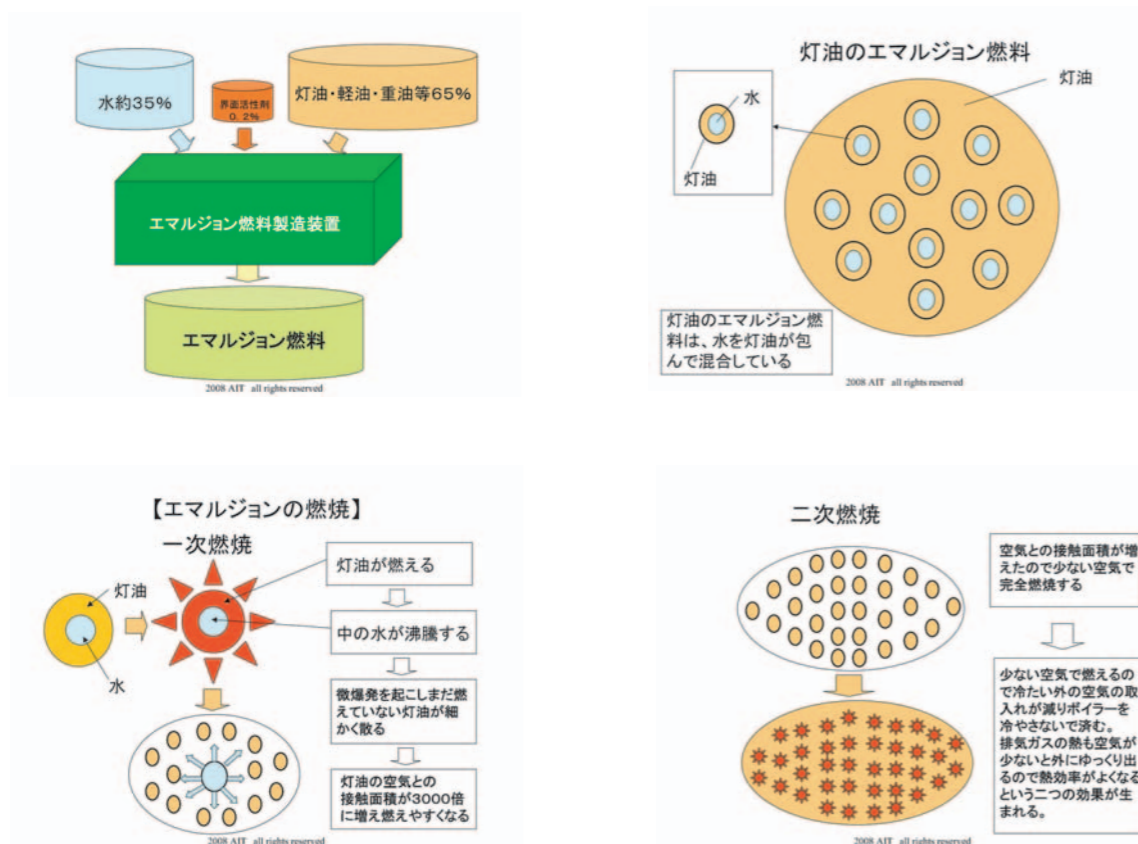


# 新燃料・エマルジョン燃料の誕生 価格は現状のA重油・軽油の10%安

石油価格上昇の背景には、中国・インド・ロシア等BRIC's 諸国の生活レベルの向上により、石油製品の消費量が飛躍的に拡大。「供給限界の背景」には、低コストで採掘可能な油田の枯渇、掘削コストの上昇、中東戦争の長期化・複雑化、資源ナショナリズムの台頭等があります。このたび、当会メンバーでの日本リソース(株)CEO 関口渉氏が、(株)日本エコバンクを設立され、新燃料の総販売され活動を開始されましたので、その概要をご紹介します。

## AITエマルジョン燃料の3つの特徴

- 既に販売している実用レベルである。  
山形県米沢市ショー社で2007年10月から継続的に花卉園芸ビニールハウスヒーター用に1シーズン200KLを実販売、大幅コストが削減できた。
  - 既設ボイラーの調整で使用可能である。  
従来型のエマルジョン製造装置では、特殊専用ボイラーが必要なため、新たなボイラー投資が必要であった。これに対してAIT型は空気量調整で既設ボイラーが使用可能。新たな投資を必要としない。
  - 長期保存しても油・水が分離しない。  
既存タンク貯蔵が可能のため、ユーザーサイドで新たなコストやスペースを必要としない。
- 現在、ジーゼルエンジン用も開発、近日発表されます。



## JIFAS & 高知大学 共同研究

JIFASと高知大学は、高知大学平岡准教授が考案した海藻胞子集塊法を利用しアマノリとアワビの「複合循環式陸上養殖」を開発する。アマノリ、アワビの相互関係による養殖環境の浄化と安定した成長を実現するための、養殖海水中の窒素及びリンの物質収支を検討することが、本共同研究の概要です。

研究は4月15日からすでに開始されている。

高知大学施設内に小規模複合養殖実験施設を設置し、実際にアマノリとアワビを複合養殖して、物質収支データを取得することが、研究の実施計画です。

アワビ養殖に関してJIFASは、世界一の生産国であり技術を有するオーストラリアとの共同研究開発を中心に、約10年に亘る経験を重ねています。

アワビ養殖における安定した養殖海水環境を実現するための硝酸などの窒素化合物とリンの物質収支と、アマノリの吸収能力および成長速度を把握することで、それぞれの収穫物の収益性を高めることが可能になり、実用化に大きく貢献できます。

2020年には世界における魚介類の50%を養殖に頼らねばならない現況に鑑み、本研究の実用化は我が国の食料確保に、大いに寄与できることは、極めて意義あることであり、世界が注目する技術です。



JIFASは会員有志の協力のもとに本プロジェクトの総合コンサルティングを担当します。

すでに、本プロジェクトの成果をもって、小規模養殖を希望する数社があり、大規模養殖を計画している有力会社、地域もあることは大変喜ばしいことです。

長年、循環式陸上養殖技術を追求してきたJIFASが、事業化を実現できなかった(しなかった)最大の理由は脱窒のために初期投資が高価になり、採算性が悪いということです。今般、その最大の問題が解決され(35%~40%安価)生産されたノリが極めて市場性が高く、毎日出荷することが可能であり、本事業にかける期待は、大なるものがあります。